

STRIKING AUDI

アウディで自分らしさを表現する
ケーススタディ2017春

S6 Avant / A7 Sportback / S5
S3 Sedan / TTS / SQ5 / A1 / S4 Sedan

VWに首ったけ!

新作ホイールでキめる
ニュースタイリング

パフォーマンスアップ最新事情

ES4

エスフォー

EURO MOTIVE MAGAZINE

68

2017 MAY

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

[TOP ISSUE]

Colored BMW

色で魅せる! カラードモディファイが新しい

F82 M4 / F87 M2 / F06 650i Gran Coupe

F82 BMW M4

SUPER SPORT & EXOTICS CLIMAX

昂ぶるチューンドハイエンドカーの世界

Ferrari 458 SPECIALE / Audi R8 / Porsche 991 Carrera S
Ferrari 488 Spider / Porsche Cayman GT4

ユーロカスタマイズの新潮流を知る!

GENEVA INTERNATIONAL MOTOR SHOW
NAGOYA AUTO TREND OSAKA AUTO MESSE



HYPERFORGED

For The Ultimate Performance and Superior Style

HF-DiC



Ferrari F12
Audi RS6 (CCB)
Ferrari 488 GTB
Ferrari 599 GTB
Bentley Bentayga
Alfa Romeo 8C (CCB)
Maserati Ghibli-S
Maserati Levante-S
Aston Martin Rapide
Ferrari 458 Speciale
Porsche 991 Carrera 4S
Lamborghini Huracan LP610
Lamborghini Aventador LP720

**HYPER
FORGED**

www.hyperforgedwheels.com

TEL. 072-256-6664

FAX. 072-256-6444





ハイパーフォージドC7 (F21×9.5J R21×11.0J) をマウント。ブラッシュドブラックディスクにグロスブラックリムという質感の違うブラックが美しい。ギリギリのフェンダーセットと、履きっぷりもさすがのセットといえる。



01. RS7純正バンパーのボトムには、オリジナルのリップスポイラーをインストール。センターを立ち上げ、両側を立たせた形状により、顔立ちをスポーティーに仕立てている。02. ステップ上部の贅肉をそぎ落とし、リアエンドで柔らかに立ち上げたRS純正サイドスポイラー。ボトムを斜めにカットし、一体感のあるサイドビューをつくる。03. ブラックアウトされたトランクスポイラーもRS7用のもの。04. 絞り込みの効いたRS7の純正リアバンパーと、カーボン生地が浮き上がるディフューザーを装着。流麗なシルエットを引き立てるボトムが、刺激的なリアスタイルを作り出す。テールエンドにはアクラボヴィッチのロゴが入ったカッターをプラス。

SPECIFICATIONS AUDI A7 SPORTBACK

WHEEL HYPER FORGED>>C7 F21×9.5 R21×11.0J TIRE CONTINENTAL>>Conti Sport Contact SP F:255/30ZR21 R:295/25ZR21 SUSPENSION KW>>Ver.2 Adjustable Coilover MUFFLER AKRAPOVIC>> Muffler Cutter EXTERIOR RS7>>Front Bumper/Side Step/Rear Bumper, OFFICE AZ>>Front Lip Spoiler/Trunk Spoiler/Rear Diffuser

A7
SPORTBACK
STRIKING AUDI

このところのアウディのデザインは、正直好き嫌いが分かれる。アクがちょっとキツイといえはいいのかな。そういう意味で、個人的にはちょっと前のアウディが大好物。その代表車が、2010年デビューのA7スポーツバックというわけ。

メルセデスCLSやBMWグランクーペあたりがライバルになるんだけど、自然に流れるひたすら美しいシルエットはピカイチ。フルLEDヘッドライトはボトムにバンパー形状と合わせたデイトライトを備え、マイチェン後に比べて主張し過ぎないシングルフレームグリル、さらにアウディのデザイナーが語ったところによると、ランボルギーニ・ミウラを意識したというリアデザインがとにかく美しい。後ろ

いっぱいまで伸びたリアウインドーと短いトランクリッド、そして小ぶりのテールランプを備えたリアスタイルは、モディファイ心を強烈に刺激する。

そんなA7 SBの美しさをいかに引き出すかをコンセプトに仕上げたのが、この1台。ポイントは足回りだ。ホイールにはハイパーフォージドC7の21インチをスタガーフィットメントで履きこなす。F9.5J、R11.0JをKW Ver.2により、上質感を損なわないロワードを施している。これにより、躍動感すら感じるデザインのA7 SBのフェンダーラインを引き立てるだけでなく、ルーフをさらに低く仕立て、A7 SB本来の美しさを引き出しているのだ。

ボディキットには、quattro GmbHによる高性能バ

ージョンRS7純正をインストール。RS7ならではのハニカムグリルと大きく開いたダクトを持つフロントバンパーに、ボトムに迫り出したフロントカーボンリップをプラスすることで、刺激的な顔立ちに仕立てている。A7 SBに比べて、より引き締まったRS7純正バンパーに、カーボンディフューザーを装着。さらにアクラボヴィッチのロゴが入ったカーボンテールをプラスし、単なるRS7ルックになっていないのもいい。

最高峰の美しいシルエットを持つアウディA7 SBだが、中古車価格は落ち着いてきており、モディファイのベースとして今後さらに注目が集まりそうで、まさしくそんなトレンドを先取りした一台だ。

絶妙なハイパーフォージドC7履きによる低重心スタイルはロワードのお手本





CALL>>HYPER FORGED ALLOY WHEELS INC. (ハイパーフォージドホイールズ) [072]256-6664 www.hyperforgedwheels.com
THANKS>>LEAP DESIGN (リープデザイン) [06]6914-5511 http://leap-design.jp
PHOTO>>kenji Isebaba (伊勢馬場建次)
TEXT>>Akira Okamoto (岡本 晃 / オフィスアヘッド)

HYPER FORGED HF-LC5

ハイパーフォージド エイチエフエルシーファイブ

研ぎ澄まされたスタイルの 究極の鍛造ホイール



SERIES	SIZE	RIM	HOLE-PCD	PRICE
Semi Concave	19	7.5~14.0J	5-100~130	13万5000~18万1000円
	20	7.5~15.0J	5-100~130	14万6000~19万6000円
	21	7.5~14.0J	5-100~130	17万6000~23万6000円
	22	8.5~14.0J	5-100~130	22万3000~32万2000円
Deep Concave	19	7.5~14.0J	5-100~130	14万~18万6000円
	20	7.5~15.0J	5-100~130	15万3000~20万3000円
	21	7.5~14.0J	5-100~130	18万5000~24万5000円
	22	8.5~14.0J	5-100~130	24万8000~34万7000円

●構造: 鍛造3ピース ●スタンダードリムカラー: ハイポリッシュアウター+アナダイズドシルバークロム ●ディスクフィニッシュ: スタンダードペイント(ブラック、ガンメタル、シルバー、ブロンズ、スタンダードゴールド、プライトゴールド、グロスホワイト)、アナダイズド(ALS、ALB、MQ、MC、BK)、スタンダードブラッシュド(グロスクリア+マットクリアコート)、ブラッシュドカラークリア(ブラッククリアコート、ブロンズクリアコート、ティントクリアコート)、ブラッシュドサイドポリッシュ、ブラッシュドアナダイズド(ブラック、マットガンメタ、ブロンズ、ライトブロンズ)、ミラーポリッシュ



Disk: スタンダードブラッシュド
Rim outer: グロスクリアコート&ハイポリッシュ
Rim inner: アナダイズブラック



Disk: ブラッシュドアナダイズブラックガンメタリック
Rim: アナダイズマットブラック



Disk: ブラッシュド アナダイズブラック
Rim: アナダイズマットブラック



Disk: ブラッシュド アナダイズライトブロンズ
Rim outer: アナダイズライトブロンズグロス
Rim inner: アナダイズブラック

フラッグシップたる矜持が詰まったモデル

今、最も注目度の高いSUVといえば、マセラティ・レヴァンテがその筆頭。鉄壁のラグジュアリー路線をリードするマセラティが、満を持して送り出したモデルだ。グリル、3連フェンダーダクト、レザーのインテリア、5m超えのフルサイズながら、クーペ感のあるリアスタイルなど、どの部分にもマセラティらしさが詰まっている。

さて、そんなレヴァンテに、完璧さともいえる個性とキャラクター付けができるアイテムが、日本が誇る鍛造ホイールメーカー、ハイパーフォージドのフラッグシップモデル「HF-LC5」である。「LC5は、ハイパーフォージドが現時点で考える最高峰の3ピースホイールです。例えば、ビレット鍛

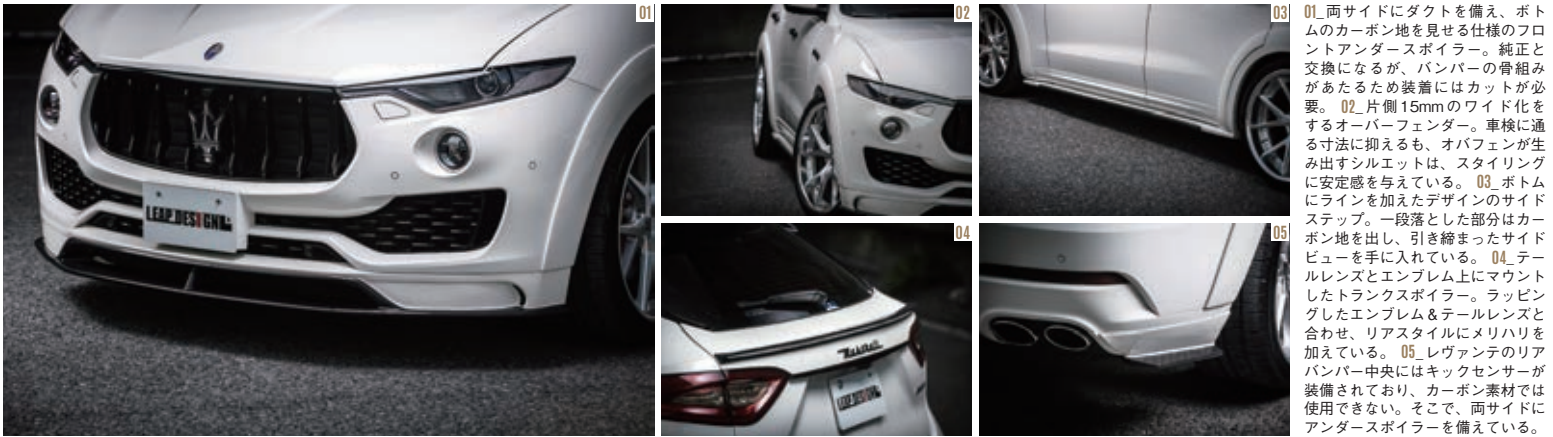
造にかける時間は、当社の一般的なビレット鍛造ホイールに比べて切削に1.5倍の時間をかけて製作しています。無駄な部分を削り、強度を緻密に計算したうえで、これ以上ない細さと薄さで仕上げている」とは、ハイパーフォージドの新野さん。

決して細すぎたり薄すぎる印象はない。でも、側面や裏側、水かき部など、目に見えない部分での削り込がなされていることが伝わってくる。ちなみにリープデザインのボディキットをおごるレヴァンテは、片側15mmのオーバーフェンダーを装着しているが、LC5はそのフェンダーに負けない存在感を放っている。

カラーリングもチェックしたい。ディスクには素

材感たっぷりなブラッシュドディスクを、アウターリムにはディスクやブレーキを映し出すハイポリッシュリムを、対するインナーリムはブラックをセレクトし、ディスクやブレーキシステムを際立たせている。

「ボディの大きなSUVにマウントする場合、ホイールとタイヤのバランスは大切になります。例えばカラーリング。ディスクとリムのトーンが違いすぎると、ホイールは小さく見えてしまいます。逆にトーンを合わせると、ホイールを大きく見せられますから。SUVとコーディネートするならば、参考にして欲しいですね」と、新野さんが言うとおり、完璧なフィッティングを見せるホイールがHF-LC5なのだ。



01_両サイドにダクトを備え、ボトムのカarbon地を見せる仕様のフロントアンダースポイラー。純正と交換になるが、バンパーの骨組みがあたるため装着にはカットが必要。02_片側15mmのワイド化をするオーバーフェンダー。車検に通る寸法に抑えるも、オバフェンが生み出すシルエットは、スタイリングに安定感を与えている。03_ボトムにラインを加えたデザインのサイドステップ。一段落とした部分はカーボン地を出し、引き締まったサイドビューを手に入れている。04_テールレンズとエンブレム上にマウントしたトランクスポイラー。ラッピングしたエンブレム&テールレンズと合わせ、リアスタイルにメリハリを加えている。05_レヴァンテのリアバンパー中央にはキックセンサーが装備されており、カーボン素材では使用できない。そこで、両サイドにアンダースポイラーを備えている。

■SPECIFICATIONS MASERATI LEVANTE 2016
WHEEL: HYPER FORGED>>HF LC5 F&R-22x10.5J
TIRE: PIRELLI>>P ZERO SCORPION F&R-295/30ZR22
SUSPENSION: POWER CRAFT>>Lowering Kit
EXTERIOR: Leap Design>>Front Under Spoiler/Side Step/Rear Under Spoiler/Trunk Spoiler/Over Fender Kit, Gloss Black Grille/Emblem, Wrapping Door Moll, Smoke Tail Lamp





CALL>>HYPER FORGED ALLOY WHEELS INC. (ハイパーフォージドホイールズ) [072]256-6664 www.hyperforgedwheels.com
THANKS>>LEAP DESIGN (リープデザイン) [06]6914-5511 http://leap-design.jp
PHOTO>>kenji Isebaba (伊勢馬場建次)
TEXT>>Akira Okamoto (岡本 晃 / オフィスヘッド)

HYPER FORGED HF-LC5 Centerlock

ハイパーフォージド エイチエフエルシーファイブ センターロック



センターロック機構を採用したアヴェンタドールSVに装着したHF-LC5 センターロック。断面形状が変わるため、LC5と同じ名前であっても、5Hモデルとはまったく違う設計になっている。



5Hモデルに比べてセンターに追い込んだ設計により、伸びやかなスポーク形状を手に入れている。フラッシュアナダイズブラックの鈍い色味が、デザインのディテールを引き出している。

よりレーシーなホイールセットを実現する センターロックバージョン

既存モデルの発展型でも、イチから設計し直した究極のフォージドホイール

ランボルギーニが誇るトップエンドモデルが、アヴェンタドールSV LP750-4だ。通常モデルとなるLP400-4が、アヴェンタSにマイチェンして740psを獲得したが、いまだにアヴェンタSVがランボルギーニの頂点であることには変わりはない。6.5ℓ V型12気筒NAエンジンは、その名の通り最高出力750psを発生。軽さを究めたカーボンボディとマッティングし、0-100km/hは2.8秒、最高速度349km/hと圧倒的なポテンシャルを誇るエキゾチックカーの頂点である。

しかし、このクルマをモディファイのベースと考えた場合、ネックとなるのがセンターロック式ホイールである。選択肢がいたって少ないのだ。でも、ボ

ルシェGT3やターボSのほか、市販車では採用されていないセンターロック方式は、ビュアに走りを目指すために欠かせない設定といえる。なにより設計上センターが出しやすいことと、加工上軽量かつ回転バランスに優れたこの方式のメリットがある。

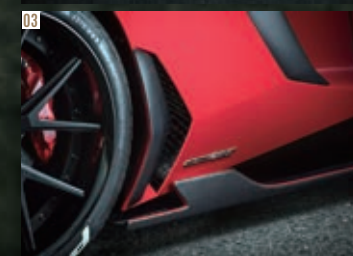
そんなアヴェンタSVにマウントする究極のホイールとは？ その問いかけに対してハイパーフォージドが用意したのが、HF-LC5センターロックだ。HF-LC5はご存じの通り、ハイパーフォージドのフラッグシップモデル。通常のフォージドモデルに比べ、削り時間を1.5倍に設定し、徹底的にムダな部分を排除しているのが特徴。

「単にHF-LC5をセンターロック方式にしました！と

いう簡単な話ではありません。通常モデルとセンターロックモデルはまったく別モノ。なによりホイール断面が変わるため、すべての部分でイチから設計し直しました。そして5Hモデルは、さまざまなP.C.Dやサイズに対応しないとはいけませんが、センターロック方式ならばターゲットを絞れるため自由度の高い作り込みができる。例えば、センター部分への追い込み。通常モデルに比べて、ずっと足長にすることができました」とハイパーフォージドの新野さん。

クーペで600台、ロードスターで500台限定という特別なアヴェンタドールSV。頂点のクルマには、やはり特別仕立ての最高のホイールをセットして極めたい。

01 アヴェンタドールSVのために独自開発したフロントアンダースポイラー。アヴェンタSVのフェイスデザインを取り込みながら、ボリュームを出さずシンプルな形状なのが印象的。両サイドを立ち上がり刺激の顔立ちを作り出す。 02 サイドステップはLP700と同じデザインを採用。フロントアンダーと高さを揃え、リアエンド部で立ち上げた形状が特徴だ。ラッピングラインにより存在感を高めている。 03 リアホイール前のサイドダクトにカバーを用意。純正では装着されていないパーツだが、あまりにも自然な仕上がり。 04 ドアミラーカバーも用意。その他のパーツ同様、ウェットカーボンを使用して統一感のあるスタイリングを手に入れている。



■SPECIFICATIONS LAMBORGHINI AVENTADOR LP750-4 SV
WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 Centerlock F:20x9.0J R:21x13.0J color:Brush Anodized Black Disk/Black Anodized Rim
TIRE PIRELLI>>P-Zero F:255/30ZR20 R:355/25ZR21
SUSPENSION S&Company Original>>Lowering Kit
EXTERIOR LEAP DESIGN>>Front Under Spoiler/Side Step/Door Mirror Cover/Side Duct Panel

